

令和7年度 第3回 水窪小・中学校運営合同協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和7年10月24日（金）13時45分から15時45分まで  
ただし、14時10分までは授業参観
- 2 開催場所 水窪中学校 ランチルーム
- 3 出席委員 柳田 温、山本 功、田中 裕彦、金田 和代、高木 罔乃、高木 幸代  
平澤 文江
- 4 欠席委員 塩崎 正敏、西岡 小百合、牧内 真美、石本 駿輔、守屋 貞慶、丹羽 貴美
- 5 学 校 鈴木 滋雄（水窪小校長）、米山 哲哉（水窪中校長）、鈴木 成幸（水窪小教頭）  
内山 由紀（CS ディレクター）

6 傍聴者 なし

7 会議録作成者 CSディレクター 内山 由紀

8 議長の選出

司会から、柳田委員を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

9 協議事項

・目指す子供像について

10 会議記録

司会の平澤委員から、委員総数13人のうち7人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

（1）前回会議録の確認について

水窪小教頭より、別紙資料の前回会議録の内容について説明があり、確認した。

（2）授業参観の感想

・道徳教育が行きわたっていると感じた。現在、水窪小中でいじめの問題は出ているか。（罔乃委員）  
→あがっていない。細かく見ているが、各家庭や子供たちの記録を見てもあがっていない。（水窪中校長）

→道徳の時間に書いてあるものを見ても、いたわりの心や気持ちがすごく表れている。先生方もマンツーマンで授業等でも見てくださっていると感じた。（罔乃委員）

→小学校の頃から、少ない人数の中でうまく関わるということが家庭環境も含めて根付いてきている。中学に入って、思うことはあるかもしれないが、家庭も含め地域も含め、自然とできてきていると感じている。（水窪中校長）

（3）グループ協議「目指す子供像について」

【第1グループ：柳田会長、田中委員、金田委員、幸代委員】

・現代の子たちと我々の時代の子とは違う。現代の子は、スマホやパソコンをしていて忙しい。個人個人で何かをしている。昔の子の方がのんびりしていた気がする。

・幼小中でずっと一緒に同じ環境で過ごす、中学や高校で進学して外に行ったときにどうか。人数が多くなるが、水窪の子は、大なり小なり芯は変わらないのではないか。

・「しなやかに生き抜く子供」は、社会性がある子のほうが生き抜けるのではないか。

・成功体験ばかりでなく、失敗を体験することも大切ではないか。

- ・水窪の子たちは、地域の人や親も含めてストレートに言うことなく、やんわり話す。街の子は、揉まれていて、ストレートに話すというイメージがある。
- ・勉強がすごくできなくても、社会に出てからの方が、仕事に対しての勉強が多くなる。これからそういう力がついてほしい。

【第2グループ：山本委員、関乃委員、平澤委員、水窪小教頭】

- ・一人では生きていけない。周りと助け合う子。周りの人の助けがあって、いろいろな情報をもらって生きていってもらいたい。
  - ・物怖じしない人。
  - ・自分で自分の路線を引ける人。自分が生きていくのはこの路線だということを自分で確実に引いて進んでくれる人。
  - ・たくましくしなやかに、折れても戻る竹のような人間になってほしい。
  - ・笑顔、挨拶を欠かさず仲間づくりができる人になってほしい。
  - ・いろいろなことに対しての失敗から学ぶ。チャレンジしなければ、失敗は生まれない。失敗したからこそ学べるものがある。
  - ・自分の意志をしっかりとっている人。簡単には染まらない自分の気持ちをもっている人。真っ白い今の気持ちが周りの人から流され紫になるのではなく、白のままで頑張ってもらいたい。
  - ・将来どこにいても、できれば水窪に帰ってきてもらいたい。本人にとってはそれが正しいことなのかかわからない。大人の、今住んでいる人のエゴではないか。
  - ・水窪の子は素直で純粋でいい子ばかり。どこにいて頑張っていようと、水窪のことを心に思ってもらい、染まらない心で生きていってもらいたい。
- ・行事や地域によって子供たちが育てられている。ランドデザインにもある、ふるさとを誇りに思う子供の育成というところも、意識づけて体験させて郷土愛を学ばせていく。学校がそういう役割を担う必要があるのを感じている。一方的に学校側だけで子供像をイメージするのではなく、皆さんの意見を取り入れて、お話しいただいたものを基に来年のランドデザインにどう生かしているのか、いろいろいいキーワードや意見が出ていたと思う。（水小校長）
- ・グループ協議でも出たが、多くの地域の人たちは、子供に帰ってきてほしいと思っている。それが将来日本を背負って立つ子供たちにとっていいことなのかどうか。水窪に住んでいる大人のエゴだったら、それを学校に方針として押し付けて、この辺りに戻ってくる子供が増え、それが実はよくなかったということになると切なく思う。地域の思いを聞いた上で、子供たちに地元に戻って来るよう言うてはいけない等あれば、理解できるようにお話ししていただけるとありがたい。専門家として、水窪の子供たちに素晴らしい教育を施していただけるとありがたい（平澤委員）
  - ・自分の道を決められるというキーワードも良かったと思う。こちらに戻るという選択もあるし、向こうで活躍しようという選択もある。自分の意志で決めていけるたくましい子供たちというのも入るなと思った。（水小校長）
  - ・心の中では戻ってきてほしいという思いもあると思う。親のエゴなのか、戻ってこなくてもいいのか、思い悩む難しさがある。浜松か、水窪か、県内かどう考えているかは人によっても違う。どこにあっても水窪を心には思っていてほしい。根っこの部分は、水窪小中で育てていかなければなら

ない。中学校としては、外に出していくためには、きちんとできるようにさせる責任もある。ふるさとを思いつつ自信をもって外に出していけるようにしたい。(水中校長)

#### 報告・連絡事項

- ・水窪小教頭から、別紙資料に基づき運営協議会委員の改選について説明があった。その後、学校教育に関するアンケートと学校運営協議会自己評価表について、説明があった。
- ・水窪中校長から、別紙資料に基づき中学校部活動の地域展開について説明があった。
- ・田中委員から、小中一貫校に向けての進捗状況について話があった。
- ・水窪中校長から、湖北高校佐久間分校の募集について説明があった。
- ・熊の出没について、長野県ではイベントが中止になったりしている。水窪に来ないとも限らない。熊の対策もだんだん視野に入れていってもらったほうがいいと思う。また、蜂に注意してほしい。土の中に巣を作る蜂もいる。9月から11月は気を付けてほしい。小屋や外の机の引き出しの中なども注意してほしい。巣があれば、寒いと思っても蜂がいる。生徒に注意喚起をしてほしい。(山本委員)